学習内容報告書 フォーマット

学校名	静岡県沼津市立静浦小中一貫学校
授業者	岡村　将嗣

1.　単元計画

1-1.　単元名

カッターボート学習

1-2.　学年

６

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合

1-4.　単元の概要

本校の合併前の小学校では長年遠泳大会を行っていた。しかし、合併で遠泳大会がなくなり、その代わりに７年前から行われるようになったのがカッターボート大会である。これらの歴史を知らずに、学習を進めると、単に記録を争うだけになってしまうので、まずはなぜカッターボートの学習をするのかについて経験者の話を聞いたり、学校の記念誌に掲載の遠泳大会の様子を事前学習したりしながら学習を進めていく。

また、カッターは、５年と６年の２学年で行うため、初めて行う５年生には、昨年度の経験を生かし、櫂の動かし方を５年生に教える活動も取り入れる。

練習は、カッターを２艇使うので、待っている間も、声掛けの練習をしたり、応援をしたりしながら一体感を感じられるようにしていく。カッター学習後は、カッター学習をやった意義をもう１度考える時間を・、地域の伝統を受け継ぐ活動であることを再確認していきたい。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

本単元のねらいは、５年生と６年生が協力し合い、競い合いながらお互いの努力を認め、静浦の伝統行事としてのカッターボート大会を大切に引き継いでいこうとする態度を育てることである。オリンピック選手を輩出した地域でもあり、昔から遠泳大会を地元で熱心にやっていた歴史を知ることで、自分達もその歴史に寄与している自負ももたせていきたい。また、大会当日は、地域の方々の応援を呼びかけることによって、地域の活性化に寄与していきたい。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

・仲間とともにカッターボートをこぐことで、力を合わせてやり遂げる達成感を味わう。
・協力して物事に取り組む態度。
・地域の方の思いや歴史を知り、伝統を敬う態度。

1-7.　単元の展開（全　　時間）

時数	学習活動・主な内容	○教師の指導 / ☆主な評価 ・外部連携 / 使用教材等

1	○カッターボートの歴史を聞く。 ○櫂のこぎ方や船に乗るときの掛け声を知る。	○静浦漁港青壮年部の方に来校していただき、カッターボート学習が始まった経緯や地域の方の思い、櫂の動かし方についての講義をしていただく。 ☆カッターボートを行う意義を知り、やってみたいという気持ちをもつことができる。 ・静浦漁港青壮年部／カッターの櫂
2・3	○昨年度の経験を生かして櫂の動かし方を５年生に教える。	○漁港の方から櫂と台座をお借りし、コモンスペースに簡易的なカッターボートを設置する。 ☆どうすれば上手に櫂をこげるかを考えて、5 年生に教えようとしている。（態度） ・カッターの櫂
4・5	○漁港の湾内で、実際にカッターボートに乗船し、櫂の動かし方や声の掛け合い方を練習する。	○艇長１名、こぎ手６名を１グループとしたチームを編成する。（艇長は、他のチームのこぎ手も行う。） ☆チームの力が最大限発揮されるように声を掛け合って、櫂をこぐ。（態度）
6・7	○５、６年全チームが漁港に集まり、タイム測定の記録会を行う。	○危険のないようにスムーズな進行ができるように配慮する。 ☆チームワークよく、力を合わせて声を掛け合って櫂を漕いでいる。（態度）
8	○学習をふり返える。	○単に記録会だけではなく、カッターボート大会の意義なども一緒に振り返らせる。 ☆カッターボート大会の意義を知り、お世話になった清壮年部の方々へ感謝の気持ちを表現している。（作文）

2.　学習活動の実際

2-1.　単元における位置づけ

単元　8　時間中の　2・3　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-2.　本時の目標

１年前にカッターボートに乗った６年生が、櫂の動かし方や声のかけ方を５年生に教えることで、こぐときは櫂の向きを返すことや、乗艇・退艇のきまりについてなど、細かな部分を再確認できるようにする。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	＊教師の指導・支援 /☆評価の視点（方法）
（５年生） 地域の人から櫂の動かし方について話を聞いたけど、実際にはどうやってこぐのかな。いきなり海でこぐのは少し不安だな。 （６年生） 去年の経験を生かして、５年生にボートのこぎ方を伝えよう。自分たちも再確認できるね。	＊コモンスペースに、簡易的なカッターボート練習台を設置しておく。５年生が自由に練習する中で出てくることが予想される、「教えてもらいたいな」という思いを授業の導入につなげていきたい。
乗艇・退艇のしかたや、櫂の動かし方について、５年生と６年生で確認しよう。 ・乗艇、退艇するときには、艇長の指示で声を出すんだね。 ・ボートに乗る順番、降りる順番は決まっているんだね。 ・実際の櫂はすごく重いね。手首を返すのはすごく難しいなあ。 ・前後の人と櫂が当たってしまうよ。どうしたらぶつからないように動かせるかな。	＊６年生は、５年生に教えながらも、自分たちでもきまりやコツを思い出す時間にできるよう声をかける。 ＊分からないこと、不安なことは、チーム内外の６年生同士で確認し合うようにする。
カッターボートのこぎ方を５年生に教えることで、自分たちもコツを思い出すことができたね。 ・次は、漁港で実際にボートをこぐのが楽しみだな。	☆櫂をこぐときは手首の向きを返すことや、乗艇・退艇のきまりについてなどについて確認し合いながら、カッターボートの乗り方について理解することができる。

3.　今回の活動の自己評価

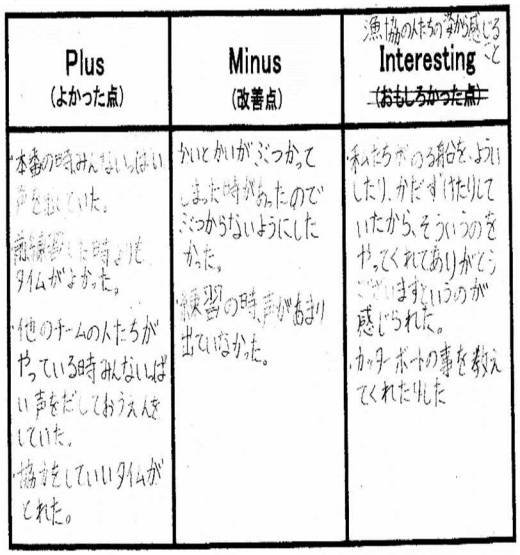
・今回から、６年生が５年生にカッターボートの取り組み方について伝える活動を取り入れた。乗艇や退艇のしかたや櫂の動かし方について話を聞いたが、いきなり海上で櫂を動かすことに不安を感じている５年生に対し、昨年度の経験を６年生が伝えることで、６年生自身もカッターボートの取り組み方を再確認できていた姿から、お互いに必要感をもって取り組める時間となった。
・「カッターボート体験」から「カッターボート学習」に変更したことで、地域の方の思いやカッターボート学習が生まれた経緯について視点を当てながら学習を進めることができた。子どもたちのふり返りには、ただ「カッターボートに乗れて楽しかった」ではなく、地域の方の思いを知って自分が考えたことや、静浦という地域に対する郷土愛に関する言葉が綴られていた。

4.　今後の課題

・海上での練習時間を縮小したため、実際にボートに乗って練習する時間が十分ではなかった。また、天候不良により練習ができなくなってしまう時間があることを考えると、練習時間をもう１～２時間は確保したい。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

　カッターボートを行うにあったっては、地域の協力が不可欠である。本実践は、地域にカッターボートがあり、実際にカッターボートの経験者が地域の方でいたからこそできた内容である。また、海に関わる行事を続けて行きたいという地域の方の思いもあってこそであるため、協力体制をきちんと取っていく必要がある。



Plus (よかった点)	Minus (改善点)	漁協の人たちの姿から感じること Interesting ~~(おもしろかった点)~~
本番の時みんないっぱい声をおしていた。 練習した時よりはタイムがよかった。 他のチームの人たちがやっている時みんないっぱい声をだしておうえんをしていた。 協力をしていいタイムがでれた。	かいとかいがぶつかってしまった時があったのでぶつからないようにしたかった。 練習の時、声があまり出ていなかった。	私たちが乗る船を、よういしたり、かたずけたりしていたから、そういうのをやってくれてありがとうございますというのが感じられた。 カッターボートの事を教えてくれたりした